

日本医療検査科学会 科学技術委員会  
2022 年度第 1 回委員会議事録

1. 日時：2022 年 4 月 16 日（土）16:20～17:20
2. 場所：ホテルグランデはがくれ 2F 背振  
および ZOOM によるオンライン参加
3. 出席者（敬称略）：藤本、大久保、澤部、白井、三村、神山、山本慶、外園、清宮、田中、川崎、汐谷、山内、柏木、御子柴、金沢、青柳、沼田、山本裕、和田、関田、山口、末吉、山下、緒方、春田、藤田、新井、角田、姫野、黄江、三宅、桑  
欠席者（敬称略）：篠原、高崎、菊地、岡田、大澤、片岡

4. 配布資料：

- 資料 1：2022 年度科学技術委員会委員名簿
- 資料 2：第 22 回技術セミナーアンケート結果
- 資料 3：第 22 回技術セミナーコメント
- 資料 4：第 20 集マニュアル表紙と目次
- 資料 5：2022 年度科学技術委員会活動計画案
- 資料 6：第 54 回大会スケジュール
- 資料 7：第 54 回大会シンポジウム演題・講師
- 資料 8：第 54 回大会モーニングセミナー演題・講師
- 資料 9：第 54 回大会科学技術セミナー演題・講師
- 資料 10：第 21 集マニュアルのテーマ、執筆者について
- 資料 11：今後の技術マニュアルのテーマについて

5. 議事：

(1) 2022 年度科学技術委員会委員について（資料 1）

2022 年度の委員名簿について資料を基に説明があった。委員の退任により幹事が減少しているため、川崎、汐谷、山内の 3 名の先生方を新たな幹事としたい旨の提案があり、承認された。また、山本慶先生より新規委員候補として倉村先生（天理よろづ相談所病院）の推薦と理由説明があり了承された。

名簿の記載事項の変更について、すでに把握している点については修正してあるが、さらに変更がある場合は事務局まで連絡をお願いしたいことと、事務局のメールアドレスが変更になることの説明があった。

(2) 第 22 回科学技術セミナー報告 (資料 2, 3)

昨年の第 53 回大会 (横浜) は、新型コロナウイルスの感染状況から現地開催とオンデマンド配信のハイブリット形式で開催された。技術セミナーに関して、昨年度から事前申し込みおよび受付が不要になったので正確な参加人数は把握できていないが、現地で参加された人数がおよそ 80 名、オンラインで視聴された方が 340 名で、両方にカウントされている人数を考慮しても 400 名程度の参加があったと思われる。

現地の参加者へはアンケートを配布して 66 名から回答を得たが、セミナーの内容に関する評価は非常に高かった。個々のコメントと次回以降の要望については、資料を参照のこと。

(3) 第 20 集マニュアル刊行報告 (資料 4)

委員、その他の方々の協力を得て、第 20 集マニュアル「謎解き臨床化学検査 わかりにくい言葉・あやふやな事を明確に！」が今年 3 月に刊行された。また、編集後記には昨年逝去された細萱先生と池田先生への追悼文も掲載されている。ユーザーに有用に活用していただけるマニュアルになったと考えている。

(4) 今年度の科学技術委員会活動計画 (資料 5, 6)

今後の委員会活動として、第 2 回委員会、シンポジウム、モーニングセミナー、技術セミナーが神戸での第 54 回大会時に計画されている。現時点では現地開催を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みてハイブリッド形式になることも十分考えられる。10 月 7 日 (1 日目) に委員会とシンポジウム、10 月 8 日 (2 日目) はモーニングセミナー、学会最終日の 10 月 9 日には技術セミナーが予定されている。また、第 21 集マニュアルを例年通り年度内に刊行予定である。

(5) 第 54 回大会シンポジウムについて (資料 7)

シンポジウムのテーマは、「溶血検体、混濁検体の測定、どうしてですか?」としたい。演者は、清宮先生、藤本先生、姫野先生、そして委員外の京都第二赤十字病院の田辺先生を予定している。また、座長を汐谷先生、山内先生にお願いすることに決定した。抄録の締め切りが 4 月末 (現在、5 月 20 日まで延長中) となっているので、よろしくお願ひしたい。

(6) 第 54 回大会モーニングセミナーについて (資料 8)

今年のモーニングセミナーのタイトルは、「生化学・免疫検査における再検査、どうしてですか?」とし、演者を山本裕先生、藤本先生としたい。大会長の日高先生から易しくて取っ付きやすい内容にして欲しいとの要望をいただいている。座長は黄江先生と

姫野先生にお願いすることに決定した。但し、コロナの状況次第で参加が困難になる事態も懸念されるので、その場合は演者の先生方をお願いする可能性もある（シンポジウムも同様）。

(7) 第 54 回大会科学技術セミナーについて (資料 9)

技術セミナーのタイトルは、今年発刊された技術マニュアルから「謎解き臨床化学検査 ～わかりにくい言葉・あやふやな事を明確に！～」とし、司会も例年通り、藤本先生、大久保先生とする。マニュアルの内容および執筆事例数からセミナーの発表内容と発表者を検討したところ、1.採血関連（山内先生）、2.分析関連（角田先生）、3.分析・精度・その他（藤本先生）、4.精度・その他（黄江先生）、5.精度・その他（山本慶先生）とすることに決定した。発表時間は一人 25 分程度で、全体で 150 分（2 時間半）のタイムスケジュールである。セミナーに関するテキストの締め切りは、8 月中旬～末になると思われる。

(8) 第 21 集マニュアルについて (資料 10)

今年度に発刊予定の第 21 集マニュアルは、テーマを「治療および治療薬物による検査値への影響（仮）」として準備を進めている。現在のところ、薬物の副反応・副作用による検査値への影響、薬物および薬物代謝物による検査値への影響、点滴による検査値への影響、などに関して 20 を超える事例が集まっている。しかし、もう少し事例を増やしたいことと、執筆者に偏りがある点が問題と思われる。これから新しいテーマに変更することは時間的な観点から困難であると思われるので、テーマは原案通りとし、透析による影響等も含めて更に事例を集めるとともに、内容と執筆者も検討を加えることとした。

(9) 今後の技術マニュアルテーマについて (資料 11)

第 22 集以降のマニュアルテーマについて議論した。装置異常時の対応事例集、異常データへの対処法、免疫関連検査（ラテックスを含む）について、精度管理方法などの意見が挙げたが、22 集以降はまだ時間的余裕があることから、今後更に検討を進めることになった。

以上

(記録：澤部)